【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年6月13日(2025.6.13)

【公開番号】特開2023-173403(P2023-173403A)
【公開日】令和5年12月7日(2023.12.7)
【年通号数】公開公報(特許)2023-230
【出願番号】特願2022-85634(P2022-85634)
【国際特許分類】
Ａ４５Ｄ４２/００(２００６.０１)
【ＦＩ】
Ａ４５Ｄ４２/００　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和7年6月4日(2025.6.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
上記の課題を達成する為に本発明は、身体の手の平側と手の甲側周りの部位に設けた装着体と、前記装着体の手の甲側に当たる位置に設けた後方確認鏡の装着手段を備えることを特徴とする後方確認鏡装着具を提供する。
ここで、装着体とはバンド体並びにカバー体を総称して呼ぶものである。
また、バンド体とは手の平側と手の甲側周りの部位に着脱自在に設けられるバンド状の帯体であり、連続した輪状の弾性帯体等を含む。また、カバー体とは身体の手の部位を被うあらゆる種類の着脱自在の手袋などの身体の保護具などである。
そして、後方確認鏡の装着体への装着手段としは、装着体に直に縫い付ける手段、縫い付けないし接着タイプの面ファスナーを介して装着する手段、同様にホックボタンを介して装着する手段、縫い付けないし接着タイプの金属板とマグネットを介して装着する手段、粘着テープにより貼り付ける手段などの他、古くからの腕時計のように後方確認鏡体側にバンド軸などを設け、該バンド軸などを介してバンド体と後方確認鏡側とを結合して一体にする手段などのように公知のあらゆる手段が可能である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
また、身体の手の平側と手の甲側周りの部位に設けた装着体と、前記装着体の手の甲側に当たる位置に設けた後方確認鏡の装着手段と、前記装着手段を介して装着される後方確認鏡を備えることを特徴とする後方確認鏡具を提供する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
また、身体の手の第１指（親指）の付け根部（第１関節と第２関節の間）の周りをその内

側に通す第１指通孔を有し手の平側と手の甲側の周りを巻き囲うバンド体と、前記バンド体の手の甲側に当たる位置に後方確認鏡の装着手段を備えることを特徴とする後方確認鏡装着具を提供する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
また、身体の腕の手首関節の外端部をその内側に露出させる外関節穴と手首関節の内端部をその内側に露出させる内関節穴を有し手首の背側と腹側の周りを巻き囲うバンド体と、前記バンド体の手首関節周りの位置に後方確認鏡の装着手段を備える案がある。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
また、前記装着体が身体の腕の手首関節の下側の腕部の周りを巻き囲うバンド体から成り、前記バンド体の腕部周りの位置に後方確認鏡の装着手段を備える案がある。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
また、前記バンド体が身体の手の装着部位の周囲に適合する大きさの輪状の被覆ゴムの帯体により形成されることを特徴とする後方確認鏡装着具を提供する。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
また、前記後方確認鏡と前記装着体との間に一方が円筒形の内面の一定長さの摺動軸受部であり他方が面より幾分突出して前記摺動軸受部の円筒形部分に適合する直径と長さの摺動軸部から成る装着手段を備えることを特徴とする後方確認鏡装着具を提供する。
以上のように、本発明の後方確認鏡装着具では後方確認鏡を日常不断に動く身体の手の甲側の部位に装着して使用する。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
後ろの状況を見たい時に、後方確認鏡具を装着した手の甲側を目の高さにあげて、後方確認鏡を斜め前方に翳すことで後方の状況をすばやく確認することが出来る。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
以下、本発明の実施の形態を実施例に基づいて説明する。
図１～図３は、後方確認鏡装着具の一実施例を示す。
図１に身体の右手１の甲側が、図２にその手の平側が示されている。手の指は第１指（親指）２から第５指（小指）３の５本の指からなる。全ての指は物を掴んだり指先での細かな動きのできる第１関節、第２関節、第３関節を有する。
後方確認鏡装着具は手の左右に関わらず装着することが出来る。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
図１０～図１１は、後方確認鏡装着具の手首周りにおける実施例を示す。
図１０に身体の右手１cの甲側８cから手首の下側の腕の背側２７の部分までが、図１１に手の平側７cから手首の下側の腕の腹側２６の部分までが示されている。
ここで、後方確認鏡を装着する装着体はバンド体９cから成っている。
この実施例では、幅の広いバンド体９ｃは身体の腕の手首関節の外端部２２をその内側に露出させる外関節穴２３と手首関節の内端部２４をその内側に露出させる内関節穴２５を有し、腕の手首関節の周りの腕の腹側２６と腕の背側２７の周りを巻き囲うようにして装着されている。